

個人用保護具

Requirement Specification



エグゼクティブ・サマリー

本標準は、個人用保護具(PPE)に関する健康・安全・ウェルビーイング(HSW)の観点から、エリクソンのグローバルな最低要件を定めたものです。

適用範囲

本標準は、PPEの使用を必要とする活動に従事する、エリクソングループおよびエリクソンの代理として業務を行うすべての関係者に適用されます。

エリクソンの地域組織、顧客、サイト所有者、または現地法令において、より厳しい、もしくはより制限的な要求事項が定められている場合は、常にそれらが本標準に定める対応する仕様よりも優先されます。

内容

1	手順	3
1.1	一般原則.....	3
1.2	能力と訓練.....	3
1.3	PPEの点検・保守・保管.....	4
1.4	PPEの種類.....	4
1.4.1	頭部保護.....	4
1.4.2	眼および顔の保護.....	4
1.4.3	手および腕の保護.....	5
1.4.4	聴覚保護.....	5
1.4.5	呼吸用保護.....	6
1.4.6	高視認性ベスト/装備.....	6
1.4.7	足部および足首の保護.....	7
2	リスク評価でブーツ(足首の負傷を防ぐため)が必要と判断される場合、着用者は靴紐や留め具を足首の一番上までしっかり締めて着用しなければなりません。責任	7
2.1	マネージャー.....	7
2.2	チームリーダー/作業責任者(PICW).....	7
2.3	PPE使用者(従業員およびサプライヤー).....	7
2.4	労働安全衛生担当者.....	8
3	参考文献	8
4	変更情報	8



1 手順

1.1 一般原則

除去、代替、もしくは工学的対策によって危険源を取り除くことができない場合には、PPEの選定と使用が必須となります。PPEの使用は、技術的対策および管理的対策と併せて実施しなければなりません。

チームリーダー/作業責任者(PICW)は、EHSプロジェクトリスク評価および現場安全リスク評価に基づいてPPEを選択しなければなりません。

チームリーダー/PICWは、PPEが危険源、作業内容、作業環境、およびそれを着用する人に対して適切であることを確保しなければなりません。

雇用者は、従業員に対してPPEを無償で提供しなければなりません

管理者およびPPE使用者は、PPEメーカーの取扱説明書に従うことを確実にしなければなりません。

PPEは、以下を含む、適用される現地規制および国際的に認められた規格に従わなければなりません(ただし、これらに限定されません)。

- アメリカ国家標準協会(ANSI)
- アメリカ材料試験協会(ASTM)
- オーストラリア・ニュージーランド規格(AS/NZS)
- 英国規格協会(BSI)
- ヨーロッパ規範(EN)
- 国際安全装置協会(ISEA)
- 米国国立労働安全衛生研究所(NIOSH)
- 南アフリカ標準局(SABS)
- 国際標準化機構(ISO)
- 国際労働機関(ILO)条約

1.2 能力と訓練

PPE使用者は初回使用前および、その後も現地の規制要件およびリスク評価に基づき、定期的に訓練を受けなければなりません。

PPEに関する訓練には、少なくとも次の内容を含めます。

- 選定方法
- 正しい着用と使用方法
- 想定される使用寿命
- 点検手順
- 保守(メンテナンス)
- 保管方法
- 限界・制約事項
- 欠陥の報告方法



高所作業、電気安全、閉所空間への立ち入りなど、他の安全特化テーマに関する訓練には、PPE に関する内容も含めなければなりません。

訓練記録は、監査人や検査官が閲覧できるようにしておかなければなりません。

1.3 PPEの点検・保守・保管

PPE使用者は、メーカーの取扱説明書および現地規制要件に従い、これらが存在しない場合には国際的に認められた規格に従って、PPE を点検・保守・保管しなければなりません。

使用者は、自身の PPE について、少なくとも毎日、使用前に点検を行わなければなりません。

使用者が PPE の欠陥や損傷を発見した場合は、その PPE を使用中止とし、交換し、代替品が準備されるまで当該作業を中断しなければなりません。

チームリーダー/PICWは、使用期限を迎えた PPE、欠陥のある PPE および損傷した PPE を廃棄前に破壊し、再使用できない状態にすることを確実にしなければなりません。

1.4 PPEの種類

リスク評価に加えて、マネージャー、チームリーダー/PICW、および PPE 使用者は、以下の点を確実にしなければなりません。

1.4.1 頭部保護

衝撃、貫通、電氣的曝露、落下物などのリスクに応じて、安全ヘルメットや高所作業用のヘルメットなどの頭部保護具を選定します。

頭部保護具は、水平にかぶり、しっかりフィットするように調整して着用します。ヘルメットを後ろ向き、斜め、または頭の上に乗せるような着用はしてはいけません。

落下物の危険がある場合は、安全ヘルメットを使用します。この場合、バンプキャップを代用品として使用してはなりません。

1.4.2 眼および顔の保護

本書で扱う眼および顔の保護は、以下のような危険に対するものです。

衝撃危険：飛来物、火花、張力のかかった機器など

化学的危険：液体飛沫、蒸気、煙など

放射線危険：紫外線や赤外線放射など



安全めがね、安全ゴーグル、フェイスシールド併用の眼保護などの選定にあたっては、リスクアセスメント、メーカーの仕様およびガイダンス、PPE 使用者の経験を参考にします。

フェイスシールドは、必ず眼の保護具と併用し、眼の保護具の代わりとして単独で使用してはなりません。該当する場合には、眼および顔の保護具が、ヘルメット、イヤーマフ、呼吸用保護具など、他の PPE と適合しているかどうかを評価しなければなりません。

眼の保護が義務付けられている場所では、度付き眼鏡は適用される現地の規制基準および公認された国内または国際規格に適合していなければなりません。オーバーグラス型の保護メガネを着用してよいのは、一時的な作業員または来訪者に限られます。

着色(色付き)の保護メガネは、屋内での使用は認められていません。

1.4.3 手および腕の保護

本書では、手および腕を以下の危険から保護するための対策を対象としています。

機械的危険: 鋭利なエッジ、工具、機械など

熱的危険: 高温または低温の表面や環境

化学的危険

生物学的危険

適切な手の保護具を選定するには、リスクアセスメント、メーカーの仕様、および PPE 使用者の経験を参照します。

手の保護具は、使用者に合ったサイズのものを使用しなければなりません。

手の保護具が有害物質や化学物質で汚染された場合、使用者は、現地の規制または公認された国際規格に従って廃棄しなければなりません。

バリアクリームやローションを、耐化学性手袋の代わりとして使用してはなりません。

1.4.4 聴覚保護

騒音レベルを、現地規制で定められた値、または A 特性 85 デシベル(dBA)のいずれか低い方まで低減できない場合には、耳栓、イヤーマフ、耳道キャップなどの聴覚保護具を着用しなければなりません。

使用者は自分の聴覚保護具が適切にフィットしていることを確認しなければなりません。耳栓の場合は耳道としっかり密着し、気密なシールが形成されている必要があります。イヤーマフの場合は、外耳全体(耳介)を完全に覆っていなければなりません。



騒音レベルを、現地規制で定められた値、または 95 dBA のいずれか低い方まで低減できない場合には、耳栓の上からイヤーマフを装着する「二重の聴覚保護」を行わなければなりません。

1.4.5 呼吸用保護

本書で扱う呼吸用保護具は、粉じん、ガス、蒸気などの空気中の汚染物質から着用者を守るために使用される、密着式防じんマスクや空気浄化式呼吸用保護具(フィルタ付き防毒マスクなど)を対象としています。

主として着用者から他者への飛沫等を防止することを目的とするサージカルマスクや医療用マスクは、本書における呼吸用保護具には含まれません。

自給式呼吸器やエアラインマスクなどの空気供給式呼吸用保護具は、本書の適用範囲外です。リスクアセスメントの結果、これらが必要と判断される場合には、EHS 専門家(:EHS SME)に相談し、現地の規制要件に従わなければなりません。

適切な呼吸用保護具を選定する際には、リスクアセスメント、想定または測定された汚染物質の空気中濃度、メーカーの仕様およびガイダンス、適用される規制要件を参照します。

呼吸用保護具は、使用者に合ったサイズのものを使用しなければなりません。

呼吸用保護具の着用者は、使い捨て防じんマスクや空気浄化式呼吸用保護具のフィルタを、いつ交換すべきかについての訓練を受けなければなりません。

現地規制により求められる場合には、呼吸用保護具使用者に対する前提条件(医療評価、適合テスト、訓練など)を遵守しなければなりません。

密着式呼吸用保護具のシール部分に影響を与えるひげなどの顔面毛、その他密着を妨げる要因がある状態での使用は認められていません。

1.4.6 高視認性ベスト/装備

使用者は、他のすべての衣類の上から高視認性装備を着用し、ハーネス、バックパック、その他の装備によって視認性が妨げられないようにしなければなりません。

高視認性装備は、使用者に合ったサイズのものを使用しなければなりません。

蛍光地のない反射材のみで構成される、つりバンド型またはストラップのみの反射ベスト(例:X字型、ハーネス型デザインなど)は使用を認められていません。

反射テープに色あせの兆候が見られる場合は、作業者を危険にさらすことなく、その装備を交換しなければなりません。



1.4.7 足部および足首の保護

落下物や転がる物体の危険がある場合、不整地・凹凸のある場所を歩行する場合、濡れたまたは滑りやすい床面での作業、はしごの昇降、足裏の貫通・刺傷の危険がある場合には、足部の保護が必要です。

足部保護具は、使用者に合ったサイズのものを使用しなければなりません。

2 リスク評価でブーツ(足首の負傷を防ぐため)が必要と判断される場合、着用者は靴紐や留め具を足首の一番上までしっかり締めて着用しなければなりません。 責任

2.1 マネージャー

- 自身の責任範囲にあるすべての活動について、リスク評価により必要なPPE要件が特定されていることを確認します。
- 必要に応じて、PPE訓練および定期的なリフレッシュトレーニングを計画します。
- 本指示書の要件へのコンプライアンスを監視し、不遵守があった場合には是正措置を講じます。
- チームリーダーやPICWがPPEの着用を一貫して徹底できるよう支援し、権限を与えます。
- この指示書のすべての要件を実施するための予算およびリソースを確保します。

2.2 チームリーダー/作業責任者(PICW)

- 適切なPPEの必要性を判断するためにリスク評価を実施します。
- 作業前にチームメンバーとともにPPEの事前チェックを行います。
- 日常業務におけるPPEの使用について、正しく一貫して適用されているかを直接監督します。
- PPEの不足、損傷した機器、訓練の不足などをマネージャーまたはEHS SMEに報告します。
- ツールボックスミーティングや安全ミーティングの場で、PPE方針を繰り返し周知・強化します。
- PPEのフィット感、快適性、適合性について、着用者からのフィードバックを促し、受け付けます。

2.3 PPE使用者(従業員およびサプライヤー)

- すべての必須PPE研修に参加し、メーカーおよび会社の指示に従います。
- 使用前にPPEを点検し、欠陥や損傷があれば直ちに報告します。



- リスク評価および現場要件に従い、PPE を正しく、かつ継続して着用します。
-
- PPEを良好な状態に維持し、ガイドラインに従って保管します。
- PPEを改造したり、形状等を変更したり、他者と共用したりしてはいけません。
-
- PPEに関して困難や不快感がある場合は、チームリーダー/PICW または EHS SME に知らせます。

2.4 労働安全衛生担当者

- 適切なPPEの必要性を判断するためのリスク評価を支援します。
- PPEの選定、使用、保守に関する技術的なガイダンスおよび訓練を提供します。
- PPE基規格に関する法規制の変更や業界のベストプラクティスをモニタリングします。
- マネージャーおよびチームリーダー/PICWがPPEコンプライアンスに関する課題へ対応し、問題を解決するのを支援します。
- PPEの品質保証、点検手順、在庫管理を監督します。

3 参考文献

該当なし

4 変更情報

1. すべてのセクションの大幅な改訂および新セクションの追加を行いました